

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 みらい		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日		~ 2024年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19人	(回答者数) 14人
○従業者評価実施期間	2024年 11月 5日		~ 2024年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別療育が充実している。	・子どものスキルや成長に添って課題を設定し、その日の体調や気持ちに寄り添って課題を進める事が出来る。 ・子ども1名に対して2名以上の支援者が配置されている為、データや記録を詳細に取ることが出来る。 ・ラミネートやカラーコピー等を使用し、繰り返し使える教材を他の支援者とも共有出来る。	・個別療育と小集団の両方に来られている子どもについては、職員間で支援内容を共有できる時間を設け、支援に反映出来るようにする。 ・子どもが楽しんで通所出来るよう、支援者一人ひとりが研修や自己研鑽に励む。
2	・支援者の方針がABAで統一されている。	・活動後に記録を細かく取り、データとして残している為、異なる支援者が引き継ぐことになった場合でも、子どもの現状が分かりやすくなっている。 ・外部からABAのコンサルタントに定期的に入って頂き、指導や助言を頂いている為、客観的な視点から支援を振り返る機会がある。	・認定ABAセラピストの資格保持者だけでなく、全ての支援者がABAに対して共通認識を持てるようにする。 ・引き続き、研修や勉強会、情報交換会等を行い、支援者1人ひとりのスキルアップを図るようにする。 ・今まで以上に、エイブリスを活用していく。
3	・保護者様と情報共有をする機会が確保されている。	・保護者様のニーズに合わせて、活動内容のフィードバックや相談事への返事を伝えている。 ・面談だけでなく、子育てサポートや保育所等訪問、日々の引き渡し時、連絡帳等で子どもの様子を詳しく知った上で、療育内での様子を伝える事が出来る。	・引き続き、子どもと保護者様のニーズに合った内容を伝えられるよう、寄り添った対応を行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・療育者の負担が大きい。	・支援者の急な休みや退職があり、負担が偏ってしまうことがあった。	・今から療育担当になるスタッフにとって重荷にならないよう、1~2か月は支援計画に沿って課題設定や活動内容を複数スタッフで考えられるようにする。
2	・支援者や記録者の評価方法次第でデータが左右されている。	・今年度入職した支援者も多く、全員に情報共有が出来ていない。 ・データを取る際、標的行動が曖昧な表記になっている。	・行動に沿った評価方法について、共通認識をもてるようにする。
3	・体を動かすスペースを確保する事が難しい。	・1つの空間を2つに仕切って使っている為、時間帯によっては使えるスペースが狭くなっている。	・狭いスペースでも工夫して運動できるように活動内容を考えるようにする。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童発達支援 みらい
------	------------

公表日 2025年 2月3日

利用児童数 2024年11月5日 現在 19人

回収数 14

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12	0	0	1	・実際に子どもが遊んでるところをまだ見たことがないから。(わからないと記入)	引き続き整理整頓や構造化を心がけ、ゆったりとした活動ができるように工夫を重ねていきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	14	0	0	0		今後も引き続き、適切な支援が行える職員配置をしていきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12	0	0	2		今後も児童が快適に、かつ、安心して活動できるように多角的な視点で見直していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	13	0	0	2		今後も引き続き、安心安全に過ごせるよう、職員全員が感染症マニュアルを熟知し、掃除、消毒、換気を徹底します。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12	1	0	1		今後も個々の特性をしっかりと理解し、その特性に応じた専門的な支援が行えるよう取り組みます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12	0	0	1		月間予定表は2カ月に1度作成し、保護者様に公表しています。引き続き、安心して通所して頂けるようプログラムを立案していきます。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	13	0	0	1		今後もこれまで以上に保護者様との連携を図り、常に新しい情報を聞き取り、本人や保護者様の気持ちに寄り添った個別支援計画を作成していきます。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12	0	0	2		ガイドラインに基づく5領域の視点を全て含めた総合的な支援内容とインクルージョンの観点を含めた支援内容を設定しています。今後も、「本人支援」「家族支援」「移行支援」を具体的に分かりやすくお示ししていきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12	1	0	1	・相談員さんが事情はあるとはいえ、年に何回も替わるのが気になる。	今後も今まで以上に支援計画に沿った支援が行えるよう、支援内容を助産してまいります。支援員の更迭に関しては保護者様とよく話し合い、安心して療育を受けてもらえるよう心掛けます。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	2	0	0		年間計画や年間プログラムを立案しています。現在のプログラムが個々の発達段階に合っているのかなど、今後も職員全員で活動プログラムが固定化しないように、多角的な視点で考えていきます。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4	0	2	8		今後、機会があれば検討していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14	0	0	0		今後も分かりやすく丁寧な説明を心がけていきます。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14	0	0	0		今後も支援計画を提示しながら、分かりやすい言葉で丁寧な説明を心がけます。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	1	0	0		保護者向けプログラムを今後も伝えていきます。最低でも、開催する2ヶ月前には、手紙やブログ、事業所内の掲示板で随時お伝えします。今年度は、家族支援プログラム時に、お子様をお預かりすることができ、参加できる方が増えました。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	13	1	0	0		今後も職員全員が保護者様とコミュニケーションを取りながら、いろいろな情報を共有できる場を作ります。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14	0	0	0		相談があった場合には、スタッフ全員で情報を共有し迅速に適切な対応を心掛けています。必要に応じて保護者面談も随時行っています。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	13	0	0	1		今後も引き続き、しっかり傾聴し、気持ちに寄り添った支援を心掛けます。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	1	1	7		保護者会や父母の会は実施していませんがペアレントトレーニングなどの勉強会に参加した保護者同士が交流を持てる場を設けています。「わからない」との返答が多くありましたので、兄弟児への支援について改善を講じたいと考えています。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13	0	0	1		引き続き、保護者様と会話を重ねて信頼関係の構築に努めます。また、相談しやすい関係性と環境を作り、相談があった場合には、迅速かつ適切に対応をいたします。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13	0	0	1		保護者とは連絡帳や定期的な面談、お迎え時での申し伝えや必要であれば個別での電話連絡で意思疎通を図るようにしています。言葉での情報よりも視覚的な情報の方が理解しやすい子どもには絵カードや写真などで対応しています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	12	0	0	2		今後も積極的に活動の様子をブログなどで発信していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12	0	0	2		今後も徹底して個人情報の保護に努めます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12	1	0	1		全てのマニュアルを作成しています。契約時には重要事項説明書と共に別紙で説明しています。また、研修を行った時には随時SNSなどで発信しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11	0	0	3		防災紙芝居等を利用して子どもにも分かりやすい内容の訓練を実施していきます。今回のアンケートで「分からない」という回答がありました。今後も今より以上にみらいでの活動の内容を皆様に発信していきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12	1	0	1		今後も安全確保に努め、研修などに取り組みます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	0	0	3		今後も安心して通所していただけるように事故発生時マニュアルを熟知し、研修に取り組みます。また、事故発生時には、迅速に行動ができるよう心掛けます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14	0	0	0		「安心感をもって通所している」「楽しみにしている」との回答、職員一同、非常に嬉しく思います。今後もお子さまが安心安全に、そして楽しく通所して頂けるよう工夫を重ねていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	14	0	0	0		担当の先生の退職や異動がある場合は、お子さまの状況に合わせて細かな対応をしていきたいと思えます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	14	0	0	0		今後も「なぜ?」「どうして?」と思われることがありましたら、アンケートの期間だけでなく、いつでもご質問ご相談ください。改善に繋げていきたいと思えます。 アンケートのご協力、誠にありがとうございました。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービス みらい				公表日	2025年 2月3日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	安全面を考慮して、子どもたちの活動スペースの十分な確保を行っている。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		7	0	職員の人数の配置が適切になるようにしている。子ども1人に対して、職員2人配置している等。必要に応じて、応援体制を取っている。	今後も職員の配置が適切になるようにしていく。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		7	0	段差や危険な箇所がないか確認をしている。段差があるところに、足跡マークをつけて、注意喚起を行っている。	段差や危険な箇所には、視覚的支援を行い、注意喚起を行っていく。また、段差や危険な箇所の確認を日々行う。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		7	0	活動終了後に、毎日清掃をしている。子どもたちが活動しやすいように、十分なスペースを確保している。	今後も清掃を行い、清潔する。子どもたちの活動スペースを十分に作る。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		6	1	個別療育を行う時は、パーティションで仕切りをしたり、療育を行う場所を決めたりしている。	今後も子どもたちが活動に集中しやすい環境設定をしていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	3	週1回ミーティングの時間を作って、話し合いを行っている。	話し合う時間が足りず必要な時は、随時相談をして、話し合う時間を確保する。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	毎年保護者からアンケートを取り、業務改善に繋げている。	今後も保護者からのアンケートを継続していき、保護者からの意見を受容し、改善に努める。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	ミーティングや1on1などを設けており、話し合いができています。	職員の意見を聞き、反映していき、業務改善に繋げていく。職員全員が意見を言いやすい環境を作る。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	ABAのコンサルタントを年に2、3回ほど行い、助言を受けて、業務改善をしている。	今後も定期的にABAのコンサルタントを受けて、日々業務改善をしていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	月1回内部研修を行っている。年に2回ほど、外部研修を行っている。	今後も月1回の内部研修を行い、日々の業務に繋げていく。また、外部研修も継続していく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	月ごとに活動のプログラム作成をして、保護者に配布している。	今後も活動内容を保護者にお知らせしていく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	モニタリングや面談でしている。	今後も適切なアセスメントを行い、支援計画に反映させる。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	支援計画案を出し、担当者に内容の確認してもらっている。担当者の意見を踏まえた上で、支援計画を作成している。	今後も担当者の意見を反映させて、個別支援計画を作成する。支援計画の内容を話し合う時間を設ける。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	最新の支援計画内容を確認しやすい位置に置き、計画に沿った内容で日々進めている。	支援計画の内容を担当者に周知徹底をして、計画に沿える内容で作成していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	活動記録を日々取っている。	今後も日々活動記録を取っていく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	「本人支援」「家族支援」「移行支援」等に分けて、支援計画を作成している。	「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらいについて、勉強会を行い、周知徹底していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	2	ミーティングで、どのようなことをするか話し合いをしている。月ごとのプログラムをカレンダーに記載している。	定期的に活動プログラムの話し合いをする時間を設ける。活動プログラムを保護者にお知らせするのを継続して行う。	

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	子どもたちが課題克服していることは終了し、次のプログラムを立てている。固定化しないように、その都度見直しを行っている。	子どもたちの様子を見ながら、プログラムが固定化しないように工夫をしていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	グループは、個別療育の時間と集団活動の時間がある。個別活動と集団活動を両方、支援計画を作成している。	子どもたちの利用状況に合わせて、個別活動と集団活動の内容を組み合わせ、支援計画を作成していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	担当者同士で声を掛け合いながら、話し合う時間は作っている。	支援内容について話し合う時間がない時は、その都度相談をしてもらい、話し合う時間を作るようにする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	3	活動終了後に振り返りをする時間を設けている。	振り返りをする時間を作り、どの職員も意見が言いやすい環境にしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	日々活動記録を取っている。過去の活動記録を見ながら、どのように支援をしていくか各自考えている。	日々の記録を取ることを徹底し、過去の活動記録を見ながら、支援検証しやすい記録の仕方を周知徹底していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1	半年に1回モニタリングを行っている。	半年に1回のモニタリングは今後も継続していく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	子どもたちのことをよく理解している支援者に面談に入ってもらっている。	子どもたちの日々を理解している支援者が面談に参加してもらうことを継続していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	3	保育所等訪問を行っている。相談支援事業所の方や幼稚園の先生が、子どもたちの療育の見学に来られることがある。	関係機関との連携をさらに深めていけるようにする。関係機関から面談や見学の希望があれば、受け入れる。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	保育所等訪問を行っている。幼稚園の先生が子どもたちの療育の見学に来て、情報共有をすることがある。	移行に向けた支援を行う。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2	保護者の希望があれば、学校等の情報共有は行う。	保護者の希望があれば、今後も学校との情報共有を行っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	2	児童発達支援センターと子どもたちの普段の様子や支援計画の共有を行っている。	引き続き児童発達支援センターとの連携を取っていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	現在は行っていないが、今後検討していく。	機会があれば、検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	保護者のお迎えの時に、本日の活動の様子を口頭で伝えている。また、必要に応じて臨時面談を受け付けている。連絡帳に目を通して、記載をしている。	日々子どもたちの様子を口頭での説明、連絡帳、面談等を通して伝えていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	ペアレントトレーニングや子育てを行う上で役立つ講座を行っている。	今後もペアレントトレーニング等を継続していき、保護者にもお知らせをする。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時に説明を行っている。	今後も契約時に運営規程、支援プログラム、利用者負担等について説明を行う。	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	面談で保護者から聞き取った内容に基づいて支援計画を作成している。	今後も保護者の思い、子どもたちのことを尊重して、支援計画を作成していく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	支援計画の説明を保護者に必ず行い、同意を得ている。また、支援計画の内容の変更希望があれば保護者に記載してもらい、修正して再度説明することがある。	今後も保護者に支援計画の説明を行い、必要に応じて、計画内容を変更していく。支援計画の内容の同意を得ることを徹底していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	1	5	保護者から相談希望があれば、面談を提案し、必要な助言を行っている。	保護者から相談の希望があれば、随時面談を行う。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	0	保護者会を検討している。	機会があれば、検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	相談の申し入れがあれば、すぐに対応し、面談日を調節している。また、可能な限り当日の臨時面談も行っている。	今後も相談の申し入れがあれば、迅速に対応していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	インスタグラムやかわら版等で、日々の活動の様子を発信している。	今後も定期的に日々の活動の様子をお知らせしていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	写真を掲載する際は、保護者の許可を取り、顔と名前をわからないようにしている。	今後も個人情報保護を徹底していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	絵カード等を用いて、視覚支援を取り入れている。活動内容をホワイトボードに書いて、順序立てて説明している。	視覚支援を取り入れ、子どもたちが何をするか理解して見通しを持てるようにしていく。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6	現在は行っていないが、今後検討していく。	機会があれば、検討していく。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	マニュアルがある。災害の避難訓練や防犯等の研修を行っている。保護者に地震等が起こった時の対応法を説明している。	マニュアルを取り出しやすい位置に置いて、すぐに見られるようにしておく。年に2回ほど避難訓練を行う。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	防災袋を用意している。地震・水害・火災等の避難訓練を行っている。	防災袋がどこにあるか、職員に周知徹底しておく。継続して避難訓練を行う。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	事前に、確認を行っている。また、てんかんが起こった場合の対応法、かかりつけの病院も確認している。	事前に、服薬や持病がないか必ず確認を行う。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	アレルギー確認を必ず行っている。	今後も継続してアレルギー確認を行う。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	災害についての研修や救命の講習がある。	今後も災害についての研修や救命講習を行う。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	災害が起こった時の対応法を保護者に伝えている。	避難訓練を行っていることを伝えたり、災害が起こった時の対応法は保護者に周知しておく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ヒヤリハットを閲覧して、再発防止について話し合いをしている。	何かあれば、すぐにヒヤリハットに記載し、共有と再発防止を職員間で徹底していく。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	市役所の職員による虐待防止の研修を行っている。	今後も虐待防止研修を継続して行う。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	2	現在、身体拘束が必要な状況にない。	今後は必要に応じて、身体拘束について説明することを検討していく。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス みらい		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日		～ 2024年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21人	(回答者数) 16人
○従業者評価実施期間	2024年 11月 5日		～ 2024年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの人数に対して、支援者の人数が充実している。	・支援者の人数が充足しているので、子どもの“～したい”という気持ちにすぐに応じられる体制になっている。 ・子どもの会話を聞き逃さず拾うことが出来ている。タイミングが合えば、周りの友達と関わる機会に繋がられている。 ・大人の目が多いので、何かあっても対応しやすい。	・支援者との会話ややりとりを楽しむだけでなく、子ども同士の関わりを増やせるようにする。
2	・曜日によって特化した活動内容があり、学習支援かプログラミングのどちらかを選択することが出来る。複数曜日ご利用でも、内容の差別化が出来ている。	・プログラミング実施の曜日であっても、保護者様のニーズや子どもの必要に応じてSSTや微細運動の活動も行っている。 ・いずれの曜日も子どもの主体性を重視し、自由遊びの時間には子どもの好きな事が出来る環境を整えている。 ・月によっては行事のイベントも出来るよう、スケジュールを設定している。	・子どもの遊びを充実させる為、支援者にも工夫やアイデアが必要。常に学ぶ姿勢を持ち、職員間で情報共有をする機会を持つ。 ・放課後等デイサービスでもABAの考え方を取り入れるようにする。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・プログラミングが好きな子どもは集中して取り組んでいるが、苦手な子どもは時間をやり過ごすことに苦しんでいる。	・複数種類のプログラミングを用意しているが、最近はスクラッチを選ぶ子どもが多い。スクラッチでは、絵だけを書いて終わる場合もあり、作品を作りきったという達成感を感じづらいことから成功体験や自信に繋がりにくい。 ・職員の知識や提案力などの力不足。 ・プログラミングの時間が長い。	・プログラミングを楽しいと感じてもらえるよう、教材の準備や支援方法が必要。 ・動機付けとして、ジュニアプログラミング検定を目指す等の目標を設定する。 ・職員間で研修をする機会を設けたり、外部研修へ参加したりする機会を設ける。 ・プログラミング学習の曜日を減らす。
2	・子どもの感情が昂った際、静かな落ち着いたスペースと人員を確保するのが難しい時がある。	・カフェのスペースはあるが、別室への移動が必要で、人の目が少なくなってしまう。	・刺激になる物が目につかない、クールダウンボックスを用意することで、取り乱した時だけで無く、日常的にリラックスルーティンを取り入れることも出来る。 ・カフェにモニターを設置する。
3	・週1回ご利用の子どもが多いが、複数回希望でも空きが無く、入りづらい事がある。	・有難いことに、退会者も少なく、ご利用希望の方の数が上回っている。	・早期療育の大切さを知っていただき、年齢が低い時から支援させて頂ける様に周知していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	放課後等デイサービス みらい
------	----------------

公表日 2025年 2月3日

利用児童数 2024年11月5日 現在 21人

回収数 16

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11	5	0	0	・模様替えをされて、更に過ごしやすい空間になったと思っています。	今年度は、床を絨毯敷にしました。今後も引き続き、整理整頓や構造化を心がけ、ゆったりとした活動ができるように工夫を重ねていきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	16	0	0	0	・とても手厚いと思います。	今後も引き続き、適切な支援が行える職員配置をしていきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	0	0	2		今後も児童が快適に、かつ、安心して活動できるように多角的な視点で見直していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	13	1	0	2		今後も引き続き、安心安全に過ごせるよう、職員全員が感染症マニュアルを熟知し、掃除、消毒、換気を徹底します。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15	1	0	0		今後も個々の特性をしっかりと理解し、その特性に応じた専門的な支援が行えるよう取り組みます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15	1	0	0		月間予定表は2カ月に0度作成し、保護者様に公表しています。引き続き、安心して通所して頂けるようプログラムを立案していきます。
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16	0	0	0	・個別によりもってきてくれてありがたいです。	今後もこれまで以上に保護者様との連携を図り、常に新しい情報を聞き取り、本人や保護者様の気持ちに寄り添った個別支援計画を作成していきます。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15	1	0	0		ガイドラインに基づく4領域の視点を全て含めた総合的な支援内容とインクルージョンの視点を含めた支援内容を設定しています。今後も、「本人支援」「家族支援」「移行支援」を具体的に分かりやすくお示していきます。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15	1	0	0		今後も今まで以上に支援計画に沿った支援が行えるよう、支援内容を勘案していきます。支援員の変更に関しては保護者様とよく話し合い、安心して療育を受けてもらえるよう心掛けます。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13	1	1	1		年間計画や年間プログラムを立案しています。現在のプログラムが個々の発達段階に合っているのかなど、今後も職員全員で活動プログラムが固定化しないように、多角的な視点で考えていきます。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	3	5	4		今後、機会があれば検討していきます。
保 護 者 へ	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16	0	0	0		今後も分かりやすく丁寧な説明を心がけていきます。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14	0	0	1		今後も支援計画を提示しながら、分かりやすい言葉で丁寧な説明を心がけます。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	16	0	0	0		保護者向けプログラムを今後も伝えていきます。最低でも、開催する1ヶ月前には、手紙やブログ、事業所内の掲示板上で随時お伝えします。今年度は、家族支援プログラム時に、お子様をお預かりすることができ、参加できる方が増えました。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	16	0	0	0		今後も職員全員が保護者様とコミュニケーションを取りながら、いろいろな情報を共有できる場を作ります。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16	0	0	0		相談があった場合には、スタッフ全員で情報を共有し迅速に適切な対応を心掛けています。必要に応じて保護者面談も随時行っています。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16	0	0	0		今後も引き続き、しっかりと傾聴し、気持ちに寄り添った支援を心掛けます。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
の 説 明 等	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	2	3	7	・保護者同士の交流の機会があれば嬉しいです。	保護者会や父母の会は実施していませんがペアレントトレーニングなどの勉強会に参加した保護者同士が交流を持てる場を設けています。「わからない」との返答が多くありましたので、兄弟児への支援について改善を講じたいと考えています。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13	1	0	2		引き続き、保護者様と会話を重ねて信頼関係の構築に努めます。また、相談がしやすい関係性と環境を作り、相談があった場合には、迅速かつ適切に対応いたします。
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14	1	0	1		保護者とは連絡帳や定期的な面談、お迎え時での申し伝えや必要であれば個別での電話連絡で意思疎通を図るようにしています。言葉での情報よりも視覚的な情報の方が理解しやすい子どもには絵カードや写真などで対応しています。
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	16	0	0	0		今後も積極的に活動の様子をブログなどで発信していきます。
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15	0	0	1		今後も徹底して個人情報の保護に努めます。
非 常 時 等 の 対 応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	1	0	1		全てのマニュアルを作成しています。契約時には重要事項説明書と共に別紙で説明しています。また、研修を行った時には随時SNSなどで発信しています。
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16	0	0	0		体験を交えて、子供にも分かりやすい内容の訓練を実施していきます。今後も今より以上にみらいでの活動の内容を皆様に発信していきます。
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14	1	0	1		今後も安全確保に努め、研修などに取り組みます。
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12	1	0	3		今後も安心して通所していただけるように事故発生時マニュアルを熟知し、研修に取り組みます。また、事故発生時には、迅速に行動ができるよう心掛けます。
満 足 度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	16	0	0	0		「安心感をもって通所している」「楽しみにしている」との回答、職員一同、非常に嬉しく思います。今後もお父さまが安心安全に、そして楽しく通所して頂けるよう工夫を重ねていきます。
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	16	0	0	0	・「休みたい」というときでも、いきいたいと結局行ってくれます。	
	29 事業所の支援に満足していますか。	15	1	0	0	・いつも大変お世話になっています。	今後も「なぜ?」「どうして?」と思われることがありましたら、アンケートの期間だけでなく、いつでもご質問ご相談ください。改善に繋げていきたいと思っています。アンケートのご協力、誠にありがとうございます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービス みらい				公表日	2025年 2月3日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	療育の場と遊ぶ場を分けていてメリハリをつけている。	子どもたちの運動スペースが狭いと感じたら、机の配置を変えて広いスペースの確保をしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	子どもと同じ人数、もしくは、多めの職員配置をしている。必要に応じて応援体制を取っている。	子ども1人に対して2人の職員を配置し、また、子ども5人に対して4人の職員を配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	視覚で子どもも大人も分かるようになっている。シンプルで子どもにわかりやすい構造になっている。	誰が見てもわかりやすい構造作りを継続していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	全てをマットに変えたことで、途中で靴を履く必要がなくなり、子どもの遊びのスペースが広がった。毎日必ず掃除を行い、清潔が保たれている。掃除担当を決めて、清潔な空間になるようにしている。	今後も清潔な空間を保つため、活動終了後は必ず清掃する。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	子どもの様子に合わせて、遊ぶところ、逃げるところ、クールダウンできる場所が確保されている。感染の疑いがある時は、個別で利用できる部屋がある。	今後も子どもたちが落ち着きで活動できる場所を必ず作る。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	全体としてもチームとしてもミーティングの時間があり、全職員が参画している。広く職員が参画できるように毎週ミーティングが実施されている。	今後もチームごと及び職員全体のミーティングの時間を設けていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	アンケート配布を行い、集計して、話し合いをして業務改善に繋げている。職員一同で情報共有をし、改善点については話合っている。	毎年アンケート配布を行い、保護者の意見に基づいて、業務改善をしていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	全体ミーティングや1on1ミーティングなどで意見を伝えることが多く設定されており、その際に出た意見を改善されている。風通しがよい環境であり、業務改善に繋げている。	意見が言いやすい環境をつくり、意見を反映させて、業務改善に努めていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2	ABAの先生からのコンサルタントを受けて、データをどのように取るのか等改善している。	定期的にABAのコンサルタントを継続していき、業務改善に繋げていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	内部研修、及び、外部研修を受けることが多く設定されていて、全員で共有することとしている。月1回様々な研修を開催し、受講している。	内部研修だけでなく、市役所等による外部研修も行うことを継続して、研修で学んだことを日々の業務に活かしていけるようにする。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	2	ホームページやSNSにて、子どもたちにどのような支援をしているかを公表している。支援プログラムを作成し、保護者にはLINE、ホームページで公表している。	今後も支援プログラムの作成を継続し、保護者にお知らせをする。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	子ども、及び、保護者のニーズや課題を把握して支援計画を作成している。ABAを基に分析し、支援計画を作成している。担当職員がアセスメントを行い、保護者と面談し、ニ	保護者との面談内容に基づいて、支援計画を作成する。また、担当職員と子どもたちの課題について話し合う。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	モニタリングを行い、課題などを共有している。ミーティングにより、子どもの最善の利益を考慮できている。支援計画に関わった職員が確認し、話し合っている。	支援計画会議を定期的に行い、保護者との面談の内容を職員間で情報共有をして、支援計画の作成を進めていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	職員全員が共有している子ども一人一人にあった支援を行っている。日々計画に沿った支援が行えているか支援計画書をすぐに見られる位置に置いて工夫している。	支援計画の内容を職員間の情報共有を徹底し、子どもたちの支援を行う。支援計画をすぐに確認しやすい位置において置き、内容を把握して支援を行う。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	今年度から標準化されたエイプルスを使用しやすくなった。子どもの日々のデータや活動記録を確認している。	過去の活動記録やデータを確認しながら、日々の支援を行う。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	面談などを行いながら、子どもに合った具体的な支援内容を設定している。5領域も含まれた具体的な支援内容が設定されている。	支援計画、日々の活動記録やデータを確認し、有効活用して支援を行う。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	チームでミーティングをしなが、活動プログラムを決めている。チームでミーティングの時間を設定し、コミュニケーションを図りながら決定している。	個別療育でチームで協力しながら療育の準備もする。ミーティングの時間を設定することを今後も継続する。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	簡単で誰でもできる内容を考えている。 毎月ミーティングを行い、内容は細かく変えるようにしている。 バランスにも配慮して偏らないように工夫している。	プログラムが固定しないように、ミーティングする時間を設けて、微調整できるようにする。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	子どもごとに個別か集団を決めて計画し支援している。 個別と集団を適宜組み合わせ常に子どもの最善を検討されている。	今後も支援の内容や役割分担をチームで確認する時間を作る。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	2	どのような療育をするのか、活動をするのかを話し合ってから支援をしている。 チームワークがよく連携しているため、ミスが少ない。 打ち合わせの時間が取れるようにシフト調節してもらっている。	療育や活動のことで話し合いをしたい時は、シフトの担当者に相談するように呼びかける。 話し合いの希望があれば、時間を設定する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	7	0	ミーティングやその日に合ったことを話している。 子どもたちがどのような反応をしたかを振り返りに繋げている。 常に話し合い、情報共有の徹底がされている。	今後も活動終了後に振り返りする時間を設定する。 気づいたことを話しやすい環境作りをする。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	データや記録を書き、良くなるように繋げている。 記録を個々に取り、改善に繋げている。	ABA分析の欄に問題行動を記載して、確認して支援できるようにする。 日々の記録を確認して、支援できるようにする。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	モニタリングを行い、子どもに合う計画を見直している。 モニタリング用紙を配布、回収の徹底により、適切な見直しを行っている。	担当職員の記載されたモニタリングを基に支援計画を作成する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	0	来所してから帰るまで4つのうち2つは出来るようにしている。	4つの活動基本に基づいて、子どもたちが2つ以上出来るような組み合わせをしていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	子どもたちがしたいことや欲しいことを選んでもらい、伝えられるようにしている。 子どもたちの意見を早朝氏、自己決定をする力を育てる支援を行えている。	子どもたちが自分のやりたいことが伝えられやすいように、選択肢を用意する等工夫していく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	子どものことを理解している職員が参画している。（保育所等訪問や相談支援機関との会議等）	保育所の先生から質問を受けた場合は、事業所に報告するようにして、職員間で情報共有をする。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	小学校や保育園、幼稚園と連携を取れるようにしている。	今後も各関係機関と連携を取りながら、支援をしていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1	送迎する時の場所等、連絡を行っている。 保育所等訪問支援のみでなく、連絡調整をしっかりと情報共有できている。 送迎の時に担任の先生に情報共有している。事業所の校	学校との連絡調整を行い、職員間で情報共有を徹底する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	0	就学前の様子等、共有できるようにしている。 児童発達支援も事業展開しており、常に情報共有と相互理解に努めている。 保護者や園、学校、他事業所より依頼を受けた時に対応	今後も園や他事業所等、就学前の子どもの様子を情報共有できるようにしていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	0	どのような活動をしていたのか等の記録を提供することがある。 依頼があれば、書面で情報提供している。	今後も他事業所との情報共有をしていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	0	連携を取り、研修なども受けられている。	外部研修は今後も継続していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	6	来所している友だちとまずは関わられるようにしている。	現在は行っていないが、今後検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	3	児発管のスタッフが参加している。	今後も協議会の案内があれば、積極的に参加するようにする。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	保護者に子どもたちの状況や今日の出来事をお迎えの時間にお伝えをして、共通理解を持っている。	今後も子どもたちの状況を保護者にお伝えいき、共通理解を持てるようにする。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	定期的に、ペアレントトレーニングを行っており、家族支援も充実している。	今後もペアレントトレーニングを継続し、保護者に案内をしていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	2	初回、契約時に担当者が説明している。	契約時に説明を丁寧に行う。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	保護者の意見を聞き、意向を確認している。 面談や日々の保護者とのやりとりの中で意向を確認する機会がある。	面談等を通して、保護者の意向をこまめに確認していく。

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	児発管が支援計画の内容を説明し、保護者から同意を得ている。	支援計画の内容を丁寧に説明し、保護者の同意を得るようにする。
	り	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	臨時面談等を通して、家族の悩みを聞き、助言や支援を行っている。	助言が難しい時は、上司や代表に相談しながら進めていく。 臨時面談を行うことを保護者に適宜提案していく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	2	ペアレントトレーニングの中で保護者同士が関われるように設定されている。	保護者会は今後検討していく。 ペアレントトレーニングや講座等、保護者同士が交流できるようにしていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	苦情があった時対応できることに関しては迅速に対応している。	今後も苦情があれば、速やかかつ適切に対応していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	かわら版、ホームページ、SNSで活動や行事を発信している。	今後もSNS等を駆使して、日々の活動や行事を発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	書類は鍵をかける棚に入れる等、留意している。	個人情報の取り扱いには、十分に留意していくようにする。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	視覚や指差しなどで、伝えられるように配慮している。	視覚支援を用いて、子どもたちの意思が伝えられやすいように工夫していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	0	事業所内だけで行事等楽しめるようにしている。	地域の行事への参加を今後検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	定期的な災害に関する訓練を行い、もしもの時に備えている。(防災袋等)月に1回研修を行っている。	マニュアルがどこにあるかを把握し、取り出しやすい位置に置いておく。 定期的な災害に関する訓練、研修を継続していく。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	避難場所を確認し、訓練を行っている。 外部講師を招いてAED、救命講習を行っている。 集団活動で非常災害時の時は、どうしたらよいか子どもたちに伝えている。	地震・水害・火災等、年に2~3回ほど災害に関する訓練・研修は継続して行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	保護者からも持病への対応法やかかりつけの病院等、事前に関き、確認している。	子どもたちの持病の有無や対応法等、保護者に事前に確認してを徹底していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	事前にアレルギーの有無を確認し、職員間で共有している。	アレルギーの有無の確認と職員間での情報共有は徹底していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	大きい道具を使う時は安全を確認してから行っている。 危険なところがないかを確認し、改善している。	日頃から安全面を考慮していく。危険を感じた時は、状況報告をし、速やかに改善できるようにしていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	どのような活動をしているのか、共有できるようにしている。	安全に活動できるように、保護者に周知をしていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ヒヤリハット報告書の回覧、共有により再発防止を検討できている。 全体会議の中で全職員と共有している。	ヒヤリハット報告が上がったら、その都度職員間で情報共有し、再発防止を徹底していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	研修を必ず行い、虐待防止できるようにしている。 市役所の方を招いて、虐待防止をテーマに研修を行い、聞いたことを取り組んでいる。	今後も外部研修を継続し、虐待防止の学びを深めていき、日々の業務に生かしていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	なるべく身体拘束はせず、子どもと関わるようにしている。 対象の子どもはいないが、マニュアルは策定している。	虐待防止の研修で学んだことを生かして、子どもたちを支援していく。	